第６回交通政策審議会航空分科会技術・安全部会

日 時：平成２８年３月３１日（木）１３：００～１５：００
場 所：中央合同庁舎３号館 １１階 特別会議室

議事概要：

＜議事（１）「平成２７年度の国の安全指標・目標値の結果の検証及び平成２８年度の国の安全指標・目標値について」及び議事（２）「平成２８年度航空安全プログラム実施計画について」に対する主なご意見・ご指摘＞

○「過去５年間の平均値から７％削減」という目標値の設定方法は、５年で１０％削減という政策目標を年度ごとに落とし込むという考え方から来ている。７％という数値が一人歩きして、５年で１０％削減という大きな目標を忘れてはならない。そのためにもＳＳＰ実施計画において、「５年で１０％削減」ということを明記すべきではないか。

○現在の安全目標の算定方法では、実績によっては目標が不安定になる。今後、固定値も含めたより安定的なものについても検討すべき。

○管制については、航空局と自衛隊が合同訓練を行うなど今以上の連携を図り、空港の特性に応じた取組を行うべき。

○空港分野における安全目標達成のための取組に、働く者の視点を取り入れて欲しい。

○航空安全情報自発報告制度（VOICES）では、空港分野からの報告が０件であるが、報告者に対する丁寧なフィードバックを通じて改善を図って頂きたい。

○対策をしてきているにも関わらず、小型機の事故が昨今減っていないのは残念。対策の一つである安全講習について、意識の高い人たちは積極的にこれを受講している一方で、講習を受けに来ない人達もいる。こうした者に対してどう対処するかが問題なのではないか。

○運輸安全委員会が調査中であるものの、昨今の事故は、パイロットの技量やヒューマンファクターが原因であった可能性が高い。異常時の対応に関するプラスの対策として、特定操縦技能審査と安全講習の両方を受けることを義務づけることなどが考えられるのではないか。

○安全教育や倫理は、一人でもこれを破る者がいると破綻してしまうので、意識の徹底を図って頂きたい。

＜議事（３）「その他の報告事項」に対する主なご意見・ご指摘＞

（安全に関する技術規制の見直しについて）

〇日本に乗り入れている外国航空会社についても、意見募集対象とすることを検討して頂きたい。

（無人航空機について）

〇空港の誘導電波を妨害したといった話を聞いたことがあるが、無人航空機に対しても妨害する者が現れたり、他の電波との混信があったりするのであれば、その対策を適切に講じるべきではないか。

（小型航空機について）

〇個人での活動が多い小型航空機分野でも VOICES に寄せられる情報の共有などを活用し、航空活動関係者がお互いに注意し合える文化の構築に取り組むべきではないか。

〇小型航空機についても、効果的に自発報告等が上がってくるしくみをつくるべき。また、フライトレコーダーの小型機への装備等、技術面についても徐々に取り組む必要がある。

〇海外に比べて日本は小型機を飛ばしにくい環境にあり、その分パイロットの技量が熟練しにくい。シミュレーター等の活用を行っていくべきである。

〇水上機を活用していく取組が進められているようだが、従来関係の無かった海洋関係者とも情報共有を進めるべきである。

〇主に小型機を運航する会社では、VOICES への報告件数は大型機に比べ少ないものの、個々の事業者の中ではヒヤリハット情報を活用しているところが多い。VOICES の制度を理解したからといって、それが必ずしも報告には繋がらない。一人ひとりの安全意識やトップの安全意識を含めた安全文化の醸成を呼び掛けていくことが重要。

〇自発報告制度の活性化のために、民間事業者では報告に対する報奨金を設定しているところもある。国の制度においても、こうしたインセンティブを考えられないか。

〇小型機の分野への対応は、これからの航空分野のパイロット確保等において裾野を広げる。参加型のデータベースを活用した、ボトムアップ型・アクティブラーニング型の対策もあり得るのではないか。例えば、VOICES については、より気軽に使用できるようにするために、ブログのように投函できるしくみなどがあってもいいのではないか。